



TITLE:

郷土天文誌

AUTHOR(S):

CITATION:

郷土天文誌. 天界 1935, 15(173): 429-432

ISSUE DATE:

1935-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167091>

RIGHT:

 郷 土 天 文 誌

〔日食秘録〕

 トツド博士と^{ニサシ}枝幸圖書館

(下 保 茂)

枝幸は北海道の北端から僅か東に偏つた北見國で、オコツク海の潮風寒い戸數五百足らずの小村です。けれども住時砂金の産地として知られてゐて、かなり早くから開けてゐました。

村の郊外翠の山を背景にした小學校の校舎の正門前に木の香新しい洋風の建物があります。旅人にとつてその建物の「公立枝幸圖書館」の、看板さへ意外であるのは、足一度その圖書閱覽室に入れば殆ど千冊に垂んとする洋書に驚嘆の聲をあげない者はありません。片田舎の小村にどうしてこの夥しい洋書を持つ圖書館が生れたか？その由來を明らかにするには米國の天文學者トツド博士の世にも美しい事蹟について語らねばなりません。

時は今から約三十九年の昔、日清戦争のすんだ次の年の明治二十九年の事です。この年の八月九日の皆既日蝕は世人にも非常な興味を與へ、天文學者は觀測地として枝幸を選びました。これは種々の便宜を得る上に人家のある場所といふ事が大切な一條件であつたらしいのです。（當時枝幸の戸數は二百戸）その年の七月末、我が國はじめ米、英、獨、佛の觀測隊の一行が續々としてこの一漁村にやつて來ました。米國などは軍艦まで派遣したのでした。村人は好奇の眼を墮り乍ら、この遠來の珍客を迎へ、村は非常な騒ぎです。外人達の何かの祝ひ日に全員浴衣がけで胸に花をさして、ねり歩くといふので村の呉服店の晒布や安つばい花簪が羽の生へたやう賣れてしまつたといふ事が今でも年寄の話しとして残つてゐます。

アメリカとフランスの一行は殆んど全部上陸して村の郊外に組立式の觀測室を急造しました。（その一部分が今尙現存してゐます。）トツド博士はアメリカ觀測隊の隊長として來られたのです。日蝕は八月九日午後でしたが雨の爲め觀測は不可能でした。その翌々十日はかねて新築中の小學校が落成して

開校式が舉行され、來村中の内外人四十餘名が來賓として列席しました。試みにそれらの人を記してみると：

東京天文臺長、寺尾壽博士、以下國枝、水原、樺の諸氏、

米國觀測隊長、トツド博士、同夫人、外數名、

佛國觀測隊長、デランドル博士、同夫人、外隨行員數名、

柘殖局長、はじめ關係役人、大學教授、師範學校長、新聞記者等、

この式の席上トツド、テランドル兩博士は寺尾博士の通譯にて一場の訓話をされたとの事です、トツド博士は、

「日本が清といふ大國を相手として堂々と戦ひ大勝を博した事の決して偶然でない事を知りました、それは國民教育が普及してゐたからで、今日僻隣のこの地にかく立派な小學校が立てられたのはこの事を物語るものであらう。この縁故深い枝幸は私にとつて一生の思出となるでせう。自分も何か此の土地に記念のしるしを遺したいものです」

と博士の心中には既に深く期するものが宿つてゐたのです。

トツド博士は夫人、子供、同伴で來村され、研究の傍ら、日本の民情を調べ、枝幸人とは極めて親しくなつてゐたのです。夫人はまた植物の研究者であつて、多數の標本を採集され、日本畫にも興味をもつて居られたとの事です。

小學校開校式に參列した前記寺尾博士始め、兩博士、夫人等が大判日本紙に寄せ書きをされ、トツド博士は見事な蘭を描かれました。この軸は今尚保存されてゐます。

九月始めトツド博士は村人の示して呉れた純情と好意とに對して兩眼に涙をうるほしながら感謝し、別れを告げて歸られました。

慌しかつたその年も暮れ、新しい年を迎えた正月十五日、雪に埋れた此の村の小學校にアメリカのトツド博士から大きな荷物が送り届けられました。「何を送られたのだらう」村人が好奇の眼をよせて解いて見ると、中から出たのは三十冊の洋書と四十二冊の日本の書物でした。「博士も氣がきかないね、讀めもしない書物を送つたりしてさ」と囁く者もあつて、無雜作に職員室の一隅の書棚に藏められました。

翌年亦大部の洋書が送られて來ました、^{〔又横文字の本か。〕}書物は厄介ものの様に扱いましたが、その次の年も又次の年もといふ風に毎年、年によつては二回も三回も送られ、かくて五年の後、明治三十四年五月に至り總數千冊を超へるといふ驚く可き數に達したのです。（洋書全部で九百十一冊。）

初め一笑に附してゐた人々も後には嚴肅な心持で博士からの贈物を取扱ふ様になつたのも無理はありません。人々はこの崇高な博士の人格に齊しく胸を打たれこの尊き贈物の前に頭を垂れたのでした、そして博士の眞意からも、この贈物を永久に記念する上からも、この書物を基として圖書館を作らうといふ事に一致し、遂に明治三十六年一月北海道に於ける最初の公立圖書館として枝幸圖書館の誕生を見たのです。

然し當初は校舎の一室をそれに當て、大部分が洋書であつたため利用する者もなく、塵埃の埋積に委せてゐたのであるが、先年現在の箇所に館舎を新築し、新刊の書を購入し、今や閑靜の地に研學の聖堂として仰がれる様になりました。

三十九年の星霜は夢と流れトツド博士も今は故人となりました、けれども博士の清らかな愛情と偉大な信實は遂に立派な圖書館を異郷に建設しました。博士の尊い贈物は枝幸圖書館と形を變へて永遠に博士の生きてゐる事を物語つてゐます。

書物は科學關係の書が多く、天文學は勿論（トツド博士の著書も五六冊あり）、物理、生物、地質、鑛物、等より、水産、教育、農業に關する年報のみならず、文學書さへも含んでゐる、其他に次の様な寫眞もあります：

1. 組立式觀測室の寫眞、（トツド博士持參のもの）
2. コロナ寫眞、（トツド博士米國にて撮られたるもの）
3. 日蝕狀態寫眞、（同）
4. 寺尾博士觀測の寫眞
5. 枝幸圖書館の寫眞（附 Mr. & Mrs. Todd）
6. 枝幸小學校開校式に各天文學者參列の寫眞
7. 揮毫軸一幅
8. （Mr. & Mrs. Todd, 其他天文觀測に參集せし人々の寄せ書。

數年ならずして北見の地は再び日蝕に見舞はれやうとしてゐるこの際、トツド博士の追憶を新にするのも無意義な事ではありますまい。會員諸兄の本

道に來遊の際は是非一度訪れる價值があると信じます。

最後にこの調査に關して多大の援助を與へて下さつた枝幸圖書館長（枝幸小學校長）吉川定氏に感謝の意を表して擧筆します。

天文學に關する洋書の一部（トッド博士寄贈）

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 訂正増補天文學 | 8. 星學及び望遠鏡 |
| 2. 天文學 | 9. マレiland氣象報告 |
| 3. 訂正圖書天文學 | 10. 珍奇の彗星 |
| 4. 太陽の全蝕 | 11. 著明の暗黒蝕 |
| 5. 初學者用訂正天文學 | 12. 火星 |
| 6. 星學 | 13. 星學及び望遠鏡（以上英文） |
| 7. 新製天文の器械 | |

以上私の記憶してゐるもののみを記して置ました。

山本日く：

トッド博士は死なれたものではありません。私が1923年の秋、アマスト大學の天文臺を訪ねた頃には、博士は退隱されてゐましたが【天界第41號第203頁十一月九日の節】、今年初、私はアマスト大學の現在の臺長グリーン氏から手紙を貰ひました其の中に、トッド博士は今尚ほ健在であること、ニウ・イングランドの寒さを避けて目下フロリダ邊りの暖い土地に行つてゐられること、老博士へ手紙を出すためには、今ニウヨーク市に居られる老博士の令嬢 (Elizabeth) 夫人に出せば、先方へ轉送して頂けることなど、こまごまと書かれてゐました。尚ほ其のグリーン氏の手紙の中に同封して、私の手紙を非常に喜ばれたエリザ夫人の自筆の手紙と、トッド老博士の寫眞2葉、それから、私の手紙をアマスト大學の總長も非常に喜ばれて、全校學生に之れを読みきかせられたことなどが、書き加へてありました。いづれ此等の手紙や寫眞は天界の次號あたりに載せるつもりです。